

Traditional crafts Marugame Uchiwa

MADE IN MARUGAME

丸龜團扇
MARUGAME UCHIWA

繁體中文
TRADITIONAL CHINESE



持ち歩き「涼」を楽しむ伝統的工芸品。

じっとしていても汗が体を伝うような暑さとなれば、涼をとりたくなるもの。多彩な形や雅やかな図柄が施され、心まで涼しくしてくれる「丸亀うちわ」。海と山に囲まれた風光明媚な丸亀地方に古くから伝わり、継承され続ける職人の繊細、かつ、鮮やかな手仕事で世に知れわたってきた。1本1本に趣のこなるそれを手に持つは粋な姿を映し出し、ゆるやかに煽ぐは優美な姿を映し出す。一本の竹から作り出される「丸亀うちわ」は、古き良き伝統を守りながら時代の移ろいととも、これからも進化し続ける。

隨身攜帶傳統工藝品，隨時享受「涼風」

在容易流汗的炎炎夏季，我們需要涼風。多款造型、圖案精美的「丸亀團扇」，讓您的身心同時保持清涼。風景秀麗的丸亀市依山傍海，這裡的製扇工藝代代相傳，創造出美麗、細緻的團扇。每面團扇皆品味獨具，輕輕揮動團扇的姿態顯得無比時尚優雅。「丸亀團扇」的扇柄與扇骨皆由同一根竹子製作，繼承了往昔手工藝的美好的傳統，並隨著時代潮流不斷演進。



江戸時代から続く歴史と文化。

慶長5年（1600年）、丸亀の旅僧が九州で一宿のお礼にうちわの製法を伝授したのが、熊本来民うちわの始まりと言われています。このため、「丸亀うちわ」の技術は江戸時代初期までに確立していたと考えられています。寛永10年（1633年）になると、金毘羅参りのお土産として天狗の羽団扇にちなむ朱色に㊦印入りの『洪うちわ（男竹丸柄うちわ）』作りを考案。その後、丸亀藩が藩士の内職にうちわ作りを奨励するなど、代表的なうちわ産地の基盤を築くことになりました。

延續江戸時代的歷史與文化

據說，九州熊本縣的「來民團扇」起源於一位遊歷九州的丸龜僧人，為報答東道主，教他們製作扇子的藝術以換取一晚住宿。這段故事據信發生在西元1600年，因此丸龜團扇的工藝很可能在江戸時代初期已十分成熟。1633年，裝飾著朱紅色「㊦」印的「男竹圓柄團扇」被指定為參拜金刀比羅宮的紀念品。此設計源自「天狗」（一種日本傳說中的生物）的羽扇。後來丸龜藩敦促其氏族武士將製作團扇作為副業，丸龜因而成為日本主要的團扇生產中心。



受け継がれる伝統と卓越した職人技。

「伊予竹に土佐紙貼りてあわ（阿波）ぐれば讃岐うちわで至極（四国）涼しい」と歌い継がれる丸亀は、材料すべてを近隣で揃えられる恵まれた土地。また、全47もの製造工程のほとんどを頼る職人の手仕事は「丸亀うちわ」の要です。地紙ひとつとっても、破れにくくするため、素材の厚さにより糊の濃度を調節するなど、「丸亀うちわ」は最高の材料と卓越した職人技の集大成なのです。

代代相傳的傳統與卓越工藝

一首短歌中（有31個音節的日本短詩歌）記載，丸龜盛產製作團扇的原材料，這些材料來自四國的其他縣。這首短歌敘述著：「讃岐（香川縣）的團扇採用伊予（愛媛縣）的竹子和土佐（高知縣）的紙所製成。搨動扇子時（AWAGURU=搨/AWA（阿波）=德島縣），舒適的自然微風為四國島帶來一陣涼爽感受。」此外，丸龜也是「丸龜團扇」的重要產地，47道團扇製作工序中幾乎半數皆仰賴丸龜工匠的手工技術。團扇工匠具備精湛的技藝，例如可根據紙張厚度精準調整膠水濃度。「丸龜團扇」是優質材料和卓越工藝的結晶。



日本一の生産量と多様な形状。

うちわ作りの職人が多く在住していた丸亀では、全国から特色あるうちわ作りを任されるようになっていきました。そのため、柄と骨とが一本の竹から作られる、本来の「丸亀うちわ」と、各産地の要素が融合。こうして、多くの特長を得た丸亀うちわは、今では国内シェア9割に上る年間約1億本以上もの生産量と、形の多様さともに日本一を誇り、平成9年には国の伝統的工芸品に指定されました。

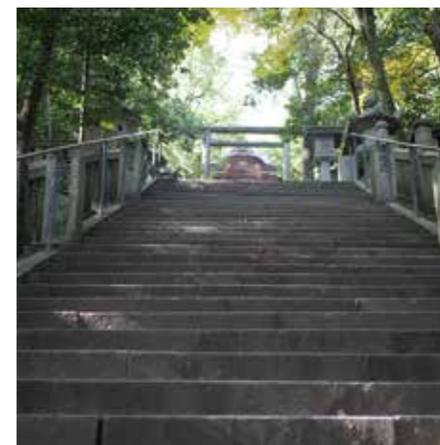
丸亀是日本最大團扇生產地，及其各種形狀的團扇

許多市民以團扇製作為業。其產品廣為人知，全國各地紛紛向他們訂製團扇。在丸亀與其他地區的技術交流過程中，最初的「丸亀團扇」——扇柄和扇骨由同一根竹子製成——和其他地區的團扇製作方法整合為一。如今的丸亀團扇有各種特點。市占率為國內總產量的90%，年產量超過1億個。而且其設計的多樣性也是日本第一。1997年，丸亀團扇被指定為日本傳統工藝品之一。



江戸時代中期以降、庶民の間で「一生に一度は、こんびらさんへ」と、こんびら参りが大流行。こんびら五街道のうち、最も栄えたのが丸亀街道でした。そこで、こんびら参りの土産物としてつくり始めたのが、丸亀うちわの起源となる赤い紙地に「丸金」印の渋うちわです。丸亀街道の始まりにある太助灯籠から金刀比羅宮の麓にある高灯籠を目印に、約 12km の道のりを経て、参道から続く「石段」や、5本の傘が特徴的な「五人百姓」、幸せのお裾分けとなる「加美代飴」などの見所を満喫。先人たちはうちわを扇ぎながら異日常から参拝旅路の帰路へとついたのかもしれない。

自江戸時代中期以来、「一生中至少要去金刀比羅宮参拜一次」的习俗蔚为流行。五条通往金刀比羅宮的街道中，以丸亀街道最为繁荣。此处，扇面以涩柿提炼的朱红色画上丸金印的「丸亀製」标记，成为丸亀团扇的起源，最初作为金刀比羅宮参拜的纪念品。以丸亀街道的太助灯籠为起点，并以金刀比羅宮山脚的高大灯籠为目的，这段旅途约 12 公里，沿途可欣赏美丽的景色，包括通往神社的「石阶」，撑著五把和伞，统称「五人百姓」的小摊贩，並品嚐当地特产「加美代糖」。先人在经历丰富精彩的参拜旅程归来后，可能会用团扇为自己搨风。



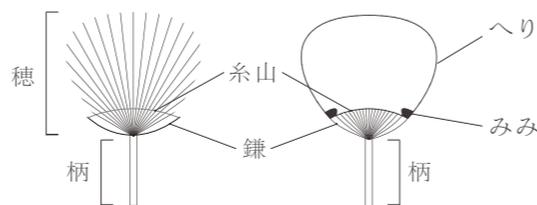
47 の工程に込められた 職人の「心」 磨き抜かれた「技」

丸亀うちわづくりには、大きく分けて「骨」と「貼り」の工程があります。一つ一つの工程に日本一の伝統を守る「丸亀うちわ」の職人芸が光ります。なんともいえない温もりは、気の遠くなるような手作業から生まれます。1本のうちわができるまで、実に47に上る工程があります。

工匠以自己的精湛技藝為榮， 開發出製作團扇的47道工序。

扇子的製作過程大致分為製作骨架和貼皮。遵循傳統的工匠們，於每道製作工序展現自己的技能。精湛的工藝是無數道手工序的成果。製作一把團扇共需要47道工序。以下展示其中幾個步驟。

各部名称



001

「木取り」
劈竹

「竹挽き」した管をうちわに適した一定の幅に鉋(なた)で割っていく。まっすぐ割れる竹の性質を利用した技。

用斧頭將竹竿劈成固定寬度的竹片。這項技術利用竹纖維自然劈裂的特性。

002

「ふしはだけ」
撥拭竹片

一定の幅に割った竹の節を除き、穂になる方の内身を取る。その際、均一の厚みにしていく事が重要。

去除竹節並刮掉竹片的內部。使竹片的粗細一致非常重要。

003

「割き」
切割

「切込機」で穂先より約5cm～10cmのところまで切り込みを入れる。穂の数は32～42本で、同じ間隔で裂いていく。

用專用竹刀將上緣切成5公分～10公分的片段。分割為32～42條，每片應間隔均勻。

004

「もみ」
揉串

上部に切込みを入れた竹を左右にひねり曲げて、竹の繊維に沿わせながら、ふしまでもみおろす。

將竹條沿其纖維方向扭轉，左右搓揉至竹節處。



005 「穴あけ」
鑽孔

穴あけ用のキリを使って、鎌を通す穴をふしの部分にあける。これは三つ目鎌が用いられる。

用三角鑽在竹條的節點上橫向打孔。



006 「柄削り」
柄削

切り出し小刀にて柄削りし、いろいろな加工を施す。この作業により、手に持った時の心地よさが生まれる。

用小切割刀調整手柄的形狀。此步驟提升握持舒適度。



007 「鎌削り」
横檔加工

切り出し小刀にて加工します。丸亀うちわの美しい曲線を表現する大切な部分。うちわの種類によって太さ、長さが異なる。

用小切割刀塑造手柄的橫檔。這個橫檔是形成團扇美麗曲線非常重要的元素。橫檔的厚度和長度視團扇的類型而異。



008 「編み」
編織

鎌を通し、その一端に糸を縛り付けて穂を編む。主に白い綿の糸だが、絹糸や色付きを使用することもある。

安插好橫檔後，開始編扇骨，一端綁一條繩子。通常使用白色棉線，有時也使用絲線或色線。



009 「付け」
整形

鎌・糸山が美しい曲線となるように穂を揃えながら、左右対称にして、糸をとじつける。

調整扇骨的長度，使橫檔和弦線形成優美的曲線，並將弦線編織成對稱的形狀。



010 「貼り」
貼面

うちわの種類などによって「のり」の濃度を調整し、穂や地紙の必要な所に「のり」をつけ、地紙を貼りつける。

調整好適當的膠水濃度後，塗在扇骨上。另外，為扇紙塗上膠水，然後將其貼到扇骨上。



011 「たたき」
去邊

うちわの種類に応じた形の「たたき鎌」を当て、木づちでたたき、余分な部分を切り取り、うちわの形に仕上げる。

用木錘和團扇專用刀透過敲擊的方式切除多餘的扇骨。



012 「へり取り」
包邊

うちわの周囲に「へり紙」と呼ばれる細長い紙を貼る。その後、「みみ」や「ぎぼし」を貼り完成。

沿著團扇邊緣貼上一張薄紙包邊，再貼上其他小紙片即製作完成。

手から手へと受け継がれた「丸亀うちわ」の伝統を守り継ぎ、その“心”を永く後世に伝える伝統工芸士。

長戸 幸夫



後継者を育てる。技術と心を伝える。

丸亀うちわの未来を考え、新しいことに挑戦しながらも、伝統の技術を伝え、後継者育成に力を入れています。

培養継承人並向其傳承團扇製作技術和工藝。

—長戸 幸夫—

荒川 和子



春夏秋冬、四季を感じるうちわづくり。

夏のイメージの強いうちわですが、四季を表現することで、一年中、人を楽しませるうちわづくりをしていきたい。

製作讓您能夠感受日本四季的團扇。

—荒川 和子—

三谷 順子



昔も今も変わらず、作ることに楽しい。

丸亀うちわの可能性を広げ、様々なことに挑戦することで、若い方にも伝統を知ってもらい、そして使ってもらいたい。

純粹享受團扇製作的過程，這種感覺從未改變。

—三谷 順子—

浅野 貴徳



うちわの魅力を最大限に引き出す「竹」。

「竹」の性質はうちわ本来の機能を最大限に引き出してくれます。道具としてのうちわの魅力を伝えていきたい。

「竹子」將團扇的魅力發揮到極致。

—浅野 貴徳—

中田 元司



竹うちわは恋人であり、良き生活のパートナー。

手作りの竹うちわが今の時代、仕事として通用するか挑戦を続けたい。次代を超えた価値や魅力を見出し、生み出していきます。

竹製團扇是我的最愛，也是生活中的好夥伴。

—中田 元司—

「丸亀團扇」的傳統工匠，秉承世代傳承的理念，將「匠人精神」傳遞給後代

川田 久子



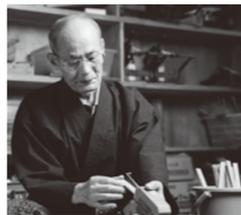
世界に受け入れられるものづくりを考えたい。

伝統的な型のうちわを元に斬新なアイデアに挑戦しながら、400年以上の歴史ある「丸亀うちわ」を次世代に継承していけるよう活動したい。

想要創造出在所有國際市場上都廣受歡迎的團扇。

—川田 久子—

大林 正春



竹うちわの長所を生かしたうちわ作りを。

丸亀うちわを絶やさな様に産地、振興に協力し、ユーザーのニーズに沿ったうちわ作りに努める。

善用竹子の優點製作團扇。

—大林 正春—

長谷川 秋義



うちわ作りは格別な物。

一本の竹から作るうちわの骨はそれだけで美しく、好きな和紙を貼り作るうちわは格別な物です。

製作團扇是別具意義的事。

—長谷川 秋義—

兵頭 恵子



伝統と革新。

昔からの伝統の良さを伝えつつ、現代らしさをプラスしたうちわを作っていました。

傳統與創新的結合。

—兵頭 恵子—

西条 久



丸亀うちわを伝えたい

大うちわや組うちわ等の知られていないうちわを作って、丸亀にはいろんなうちわがあることを知ってほしい。

我想介紹有關丸亀團扇的一切向大家介紹。

—西條 久—



世界の持続可能な観光地 TOP100 に選出。

国の伝統的工芸品である「丸亀うちわ」の伝統を継承する取り組みや環境に配慮した取り組みが、「世界の持続可能な観光地 TOP100」に初めて選出されました。これは、世界中の持続可能な観光地を毎年審査する国際認証機関 Green Destinations によるもので、2023 年のカテゴリーである Culture&Tradition（文化と伝統）において認められたものです。丸亀うちわの「伝承人育成」や、「オリーブうちわ」「しおりうちわ」といった竹の端材を活用したサステナブルな商品造成などで観光を切り口に交流人口の増加、地域経済の振興に 大いに寄与していると高く評価されました。

入選全球百大永續旅遊勝地。

我們保護日本傳統手工藝「丸龜團扇」的努力和環保舉措，使我們首次入選「全球百大永續旅遊目的地」。本獎項由國際認證機構「綠色旅遊目的地」（Green Destinations）頒發，該機構每年評估世界各地的永續旅遊目的地，我們在 2023 年文化與傳統類別中獲得這項殊榮。透過「培養傳統技藝的繼承人」以及利用竹廢料製作「橄欖團扇」和「詩織團扇」等永續產品，為旅遊業增加遊客人數並鼓勵當地經濟，我們因這些貢獻而受到高度讚揚。

丸龜市産業観光課

763-8501 香川縣丸龜市大手町 2-4-21

T E L : 0877-24-8844

F A X : 0877-25-2409

丸龜團扇美術館

香川縣團扇合作社聯合會

展覽、展示、體驗活動和團扇銷售

763-0054 香川縣丸龜市中津町 25-1

T E L : 0877-24-7055

F A X : 0877-43-6966

E-mail: polca@leaf.ocn.ne.jp



Website



Instagram